



3月号

平成9年3月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

学級ごよみの最後の一枚

四月よりぐんと背が伸びた
いつの間にか大人の顔になった
それでも

無邪気な笑顔と真直な眼差が
変わらないのがうれしい

努力して栄光をつかんだ
誠実に責任を果たし続けた
友を支え続けた
いつも精一杯

この一年が君の最後として
充実したものになったか
私は私自身に問いながら
万感の想いをこめて
君の背中をそっと押し出す

光の中へ

〈別れ〉



(ねえ、見て、できたよ。じゅず玉のネックレス。— 小豆坂小)

少子社会にふさわしい児童自立支援システムについて、中央児童福祉審議会基本問題部会で審議されているが、その内容の一端を紹介し、参考に供したい。以下概要を記述する。「昭和二十二年に児童福祉法が制定された直接の契機が、戦災浮浪児の保護救済であったように、戦後間もない時代、社会的支援を必要とする児童の大半は、貧困あるいは親の死



亡を理由とするものであった。しかし、その後、半世紀が経過する中で、少子化の進行、家庭や地域の子育て機能の低下など、児童を取り巻く状況は大きく変化している。これに伴い、児童をめぐる問題は、特定の児童や家庭の問題ではなくなっており、その態様も多様化、複雑化している。」

り上げられている。

そこでは、次代を担う児童が個性豊かでたくましく生きていくことができるよう、一人ひとりの児童の健全な成長を支援することは、特に、少子化傾向が定着した今日、社会が最も優先して取り組むべき課題の一つであると指摘している。また、児童をめぐる現状と今後の支援のあり方について、三項目を掲げている。

— 教育随想 —

時代の要請にマッチする
児童福祉体系の構築に向けて



崎長 匠
岡所 談
知相 児
愛 牧野

一つ目は、児童をめぐる状況の変化について、①児童の最善の利益の尊重 ②少子化がもたらす児童の成長への影響 ③家庭や地域の子育て機能の低下 の三点をあげている。二つ目は、問題の多様化、複雑化について次のように述べている。「児童福祉法制定当時の要保護児童は、貧困・親の死亡を理由とするものが中心であったが、今日、親がお

り、家庭の経済状況が必ずしも貧困ではない児童が何らかの社会的支援を必要とする場合が増加していること。虐待・不登校・いじめ等の問題が増加し、新たな対応が必要であり、特に虐待については、総合的な検討が必要であるとし、また、地域の環境改善に向けた努力が必要である。」

三つ目は、今後の支援にあたっての考え方について論述している。「支援をするに、保護し養育するだけでなく、一人ひとりが個性豊かであらうと、思いやりのある人間として成長し、自立した社会人となることを基本理念とすべきである。」とし、さらに、「問題の多様化、複雑化に対応して、一人ひとりの態様に応じた支援を行うべきであって、児童の自然の成長力が最大限発揮されるよう見守ることも重要である。」と付け加えている。

なお、審議結果の中・後半では、「施設の在り方」や「支援体制」について述べ、児童相談所の方向も示されている。今後、この提言を踏まえて、法改正が予定されているが、ただ、当面は現状のなかで最大限の働きをしていく覚悟であり、関係機関の格別のご協力をお願いしたい。



耐える子供に

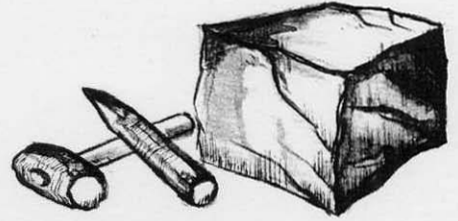
童谷小学校長

野崎 公夫

今の子供はすいぶん恵まれていて幸せだ。自分が育ったときのことと比べてみれば、疑う余地は少ない。かつてのように兄弟でおやつを奪い合いをする子供はまれである。私の子供の頃はまだ食べるものが十分になかった時代であり、おなかがいなくても食べるものを与えてもらえなかったことがどれくらいみじめなものであったか。今の飽食の時代の子供には理解できないことであろう。私が小学校の頃、昼食時間、新聞紙で弁当箱を隠して、おかずのない麦飯を食べていた。それでも母親が着物を一枚一枚売ってきては、米や麦を買ってきて、私たち子供に作ってくれた弁当である。その弁当のご飯の焼き方もお釜の底にお米だけをかし、その上に麦をかし、またその上に角切りにした

ふるさとシリーズ

この人に聞く



鍛冶職人

大橋 健治 氏

ほど場（炉）ではコークスが真っ赤な炎を上げている。大橋さんは、左手で握るはし（やつとこ）で真っ赤に燃えた鉄の塊をぐっと挟み、ハンマーを何度も打ち下ろしながら、形を整えていく。カンカンと小気味のよい音が辺りに響く。一見無造作と思える作業のなかに、熟練した職人の技が生きている。設計図はなく、四十年来培ってきた自分の目と勘だけが頼りの技である。

数分後、真っ赤な鉄の塊は命を吹き込まれ、先の尖ったのみに生まれ変わっていた。

「石都岡崎」には石工業者が多い。その石工職人が使う道具を作るのが鍛冶職人である。この種の職人は岡崎特有であり、それ故全国から、のみ・両刃・ハンマーなどの道具の注文が入る。また、大橋さんの道具は、彫刻を行う若者にも人気があり、注文が絶えないそうだ。

十七歳からこの道一筋の大橋さんに、苦勞話を伺った。

「若い頃は、ハンマーだけの作業だった。朝から晩まで振ると、えらかったね。ハンマーの柄に指の跡がくつきりついていたらもんだ。」

昔使われていたハンマーが数本、仕事場の片隅に置かれている。大きなもので、七キロもの重さがあるそう。

仕事の内容は、スプリングハンマー（プレス機）が備えられたこととふいごが送風機に変わったこと以外は、昔も今も変わっていないとのこと。まさに、江戸時代からの伝統の技が今に引き継がれている。

仕事の魅力についてこう話された。

「硬い鉄を、たたき具合ひとつで自由な形にできるのが、何と云っても魅力だね。」

「お客さんから褒め言葉をかけてもらえる時が一番うれしいね。『い

い道具だね、今度もまた頼むよ。』と云ってもらえると、やりがいがあるよ。」

そう云って笑顔を見せる大橋さんであるが、自分を見る目は厳しい。「お客さんが直しに持ってきた時に、仕事甘かったことがわかる。自分の頭に描いたままの物はいつまでたってもできないよ。自慢できるものはひとつもないね。」

謙虚に話される大橋さんに、鍛冶職人としての誇りを感じた。

氏名 おおはし けんじ
生年月日 昭和十年十一月二十四日
住所 大和町西島五十二番地八



さつま芋をのせて焚いたご飯であった。そのご飯の上の方だけを先に取り除き、残った麦とお米の部分だけを、私たち子供の弁当に詰めてくれたものである。

今の親は、子供を少なく産んで大事に育てる。これがそのまま子供の幸福につながると信じている。

しかし物事はよいことづくめということはありえない。豊かな社会、豊かな家庭には貧しい社会、家庭にない教育の難しさがある。ところが、我々大人はそこに気づいていない。うっかりすると豊かさの影に隠れた落とし穴が待っている。

「今の子供はかわいそう」とも言える。子供はハングリー精神を欠き、親は子供に物を買ひ与え、子供ができることまでしてしまふ。兄弟の少ない環境は、けんかを知らない「いい子」を育ててしまふ。しかし人間関係の感覚の発達が十分でない子とかなえることのできない子になってしまっている。

大人は「今時の子供は…」と嘆くよりも子供を鍛えるべきだと思ふ。

今の教育で大切なことは子供に何をしたらいけないかを考えることではないだろうか。

すこやか大賞

SERUM方式の健康教育 山申小

▲健康ジャンボカルタ取り大会

Sスマイル

文部省・朝日新聞社などが主催する全日本健康推進学校表彰で、岡崎市立山中小学校が中規模校日本一である「すこやか大賞」を受賞した。

山中小学校は「スクラムで楽しく健康教育」を研究主題に掲げ、子供、学校、家庭・地域がそれぞれの役割を生かしながらスクラムを組み、心や体の健康づくりに、平成四年度より五年間取り組んできた。

同校には、S（スマイル）、C（コミュニケーション）、R（ルール）、U（アンダースタンディング）、M（マネジメント）という五つの健康推進部があり、多くの活動が行われている。特に、S（スマイル）の活動は、縦割りの集団「山小スクラム」が軸となり、スクラムオリピック、スクラム給食などの



▲学区歩け歩け大会

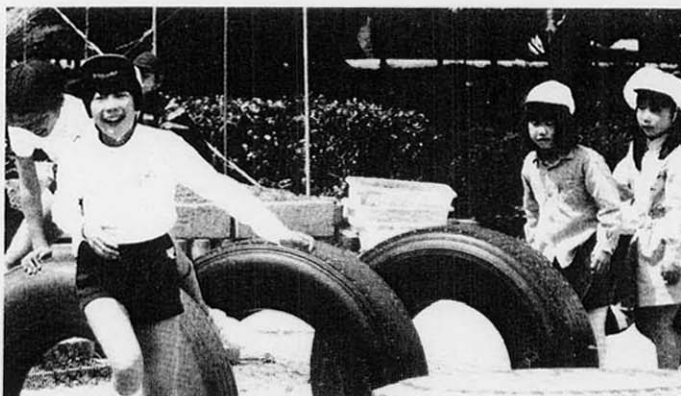
Cコミュニケーション



▲親子で身体測定



▲親子給食



▲さわやかタイムでゆとりの心



交通安全教室▶



▲学校歯科医から学ぶ



▲野菜博士（地域の人）から学ぶ

ヒ ア ン ダ ー

児童会活動から、スクラム運動会、スクラム遠足、健康フェアなどの学校行事まで、多種多様な内容である。また、それは、PTA、社会教育委員会など家庭・地域を巻き込んだ活動となっている。

山中小の先生に話を聞くと、
「やはり、子供を見る場合のプラス思考が大切ですね。それと、健康教育のキーワードは自主性です。それも、子供と教師、双方の自主性ですね。」
と語ってくれた。今でも、新しい企画に次々と挑戦している先生方。そして、同校の目指す子供像の通り「えがおいっぱい」の学校生活を楽しんでいる子供たち。
このスクラムの輪がさらに広がっていくことを期待したい。

M マネジメント

R ルール



▲自分に合った磨き方の習得



▲保健学習



心は優勝

矢作南小学校

坂元 干城

「水泳大会、応援だけは絶対に負けないこと。」

本学級は運動が苦手である。運動会などの大会があると決まって最下位だ。負ければ当然学級の雰囲気は悪くなる。だが、今度の水泳大会では何か子どもたちに満足感を持たせたいと願った。勝ち負け以外の充足感を。それが応援だった。

K男は運動が大の苦手だ。こうした行事では全く存在感がなくなってしまう。しかし今回は違った。K男は応援団長になったからだ。K男と何度も相談し応援の骨組みを作り上げた。声援のパターン化、そして応援グッズ作り。K男を中心にしてくラスは盛り上がりつつあった。

水泳大会当日、子どもたちの

応援は爆発した。K男の体が躍動する時、学級の全員が燃え上がった。声援が一段と激しくなるのは、水泳が苦手な子が登場した時だ。もがきながら泳ぐ姿は子どもたちに感動を与える。そしてその子に声援を送る子どもの姿も。

結果はやはり最下位だった。正直、悔しかった。だが、教室に戻って静まり返る子どもたちに言葉を残した。

「競技では最下位だったが、みんなの応援は素晴らしかった。心は優勝だ。おめでとう。」

K男の涙にひきこまれるように、子どもたちの目からも満足の涙があふれた。



同師弟

率先垂範

城南小学校

佐々木 八津子

中学の二、三年生の二年間、私は早川先生に担任していたできました。先生はどんなことにも熱心で、いつも私たち生徒の中に入って指導してくださいました。

そんな中でも合唱コンクールに向けて練習していたころの先生が印象に残っています。学級会の時間にみんなで歌の練習をするとき、先生は必ず私たちの前に立って私たち以上の大きな口を開けて歌っておられました。その先生の口の開け方に負けないようにと、私たちも口を開け、声を張り上げて歌ったものでした。コンクールの結果ははつきりとは覚えていませんが、た



ぶん優勝だったと思います。

小学生のころから私は教師に憧れていましたが、早川先生に巡り会えて、更にその気持ちに強くなりました。

念願の教師になれ、中学校に赴任し、初めて担任を持たせてもらったとき、早川先生のような教師を目指している自分に気づきました。

とても早川先生のような素敵な先生にはなれないと思いますが、子供の中に入り少しでも子供の手本となれるような先生になりたいと思います。

忘れ得ぬ笑顔

前電美丘小学校長

早川 円浄

中学時代、陸上部でひたすら走り続けていた八津子先生通称八っちゃん。学級では目立たぬ存在であったが、率先

して学級の仕事をよく助け、みんなに親しまれていた。

高校受験も間近に迫り、夜私は生徒の勉強を見て回ったことがある。先生の夜襲である一部は生徒に嫌われたものだったが、ある夜彼女の家

にも突然訪問した。世界地図を広げて社会科の勉強中であつた。お母さんは進路について心配されていたが、どこの家とて同じこと、さて家を去る時、「先生、有難うございました。」の声は、親ではなく八津子さん本人であつた。その時のさわやかな笑顔が妙に今でも忘れられない。翌日の生活ノートの頁であつたと思うが、将来先生になる決意が書かれていた。

在職時代、私が為し得なかつた幾多の実績を上げてみえる八津子先生、その様子をうかがい知るたびに、わが子のよう嬉しものである。今では中高生の母親、立派に教師の勤めも果たしてみえるその秘訣には、あのさわやかな笑顔があると思つた。

益々のご活躍を祈る。

●個人研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教科領域	研究主題
成瀬 茂雄	根石	社会	一人一人の子どもに成就感と存在感のある社会科授業
植田 英雄	福岡	理科	目を輝かせ、個性豊かに学習できる生徒の育成

優秀賞

石原めぐみ	梅園	国語	自ら考え、進んで学びとる力を育てる国語科学習指導
洲崎 恵里	矢作北	国語	楽しみながら確かな文を書ける子の育成
萩原 高代	六北部	国語	説明文の読み取りの学習から
寄田加津子	岩津	書写	正しくていねいに書く子の育成
藤森 裕司	緑丘	社会	児童の感性を刺激し歴史を身近に感じられる授業の創造
清水 隆史	連尺	社会	個を生かし主体的に学習する子供の育成
高嶽 利行	竜美丘	算数	追究意欲を持たせ算数のよさを味わわせる授業の創造
高松 順子	連尺	算数	子供たちの主体的な学習活動を支えるティーム・ティーチングのあり方
中垣 明道	岩津	算数	自ら解決していこうとする子の育成
佐々木八津子	城南	算数	お互いを認め、意欲を持って学習する子をめざして
山本友美枝	緑丘	理科	自ら考え、解決していく授業を目指して
安藤 直成	連尺	理科	子供が主体的に問題解決する理科の授業
清水 範彦	六中部	理科	子供が意欲的に追求する理科の授業の創造
河上 咲子	男川	生活科	地域に出て生き生きと活動する子どもを求めて
檜山 清美	連尺	生活科	自ら活動し出す子供を目指して
清水 孝治	藤川	生活科	自ら学ぶ子の育成
加藤 裕美	竜美丘	音楽	表現することの楽しさを味わわせる授業
細瀬 葉子	本宿	音楽	楽器の響きや音色を感じ取り豊かに表現する子を目指して
太田 悦子	連尺	体育	自分の思いを表現する楽しさをつかむ体育学習
小田 昌男	上地	体育	子どもたちが自ら、教員や場を工夫し、全員がその運動の特性にふれた楽しさを味わう体育授業
吉戸 三佳	小豆坂	体育	自ら意欲を持って取り組む体育学習
山田 雅敏	緑丘	道徳	緑に親しみ緑を慈しむ子供の育成
土井 孝夫	六名	道徳	道徳の実践力を高める総合単元的道徳学習
磯村 彰久	連尺	特別活動	友達や自分の良さを生かし合いながら自主的に活動できる子供の育成
池田 芳浩	生平	特別活動	身近な自然を生かしながら、主体的に活動する子供を育てる学級活動
宮地久美子	美合	特殊教育	「読むこと」を手だてとしことばの力を伸ばす
羽根潤一夫	緑丘	視聴覚	表現力を広げ、映像制作能力を高める子の育成
小田 哲也	藤川	視聴覚	主体性を伸ばすマルチメディア教材の利用
武田 玲香	大門	図書館	本好きな子どもの育成を目指して
神谷 明良	美合	教育全般	思考が連続し、意欲・関心が増すクロスカリキュラム
稲垣 幸一	奥殿	教育全般	思いやりの心を持ち、進んで実践できる子を求めて
河合由起子	城北	国語	人としての生き方を見つめる国語の授業Ⅱ
野々山こず江	常磐	国語	豊かな学力の育成をはかる国語科の授業
加藤 有悟	城北	社会	発見する楽しさ、感動する喜びを味わう社会科の授業
加藤 嘉一	岩津	数学	数学的な表現力を高める授業の創造
植田 進一	竜南	数学	個性を生かす課題学習
岡田 進	六ツ美	理科	意欲的に取り組み、主体的に追究する生徒の育成をめざして
早川 周宏	六ツ美北	美術	生徒の意欲を高め、表現することの喜びを味わわせる美術教育
中野渡善樹	南	体育	自ら運動に親しめる生徒の育成
荻野 卓寛	竜海	体育	自らチャレンジし生涯体育をめざす授業
近藤 文彦	南	技術家庭	問題解決に挑戦し、作物を育てる喜びを体感できる生徒の育成
石川 佳宏	甲山	英語	方略的能力 (Strategic competence) の育成をめざす英語学習のあり方を求めて
安藤久美子	六ツ美	英語	意欲的にコミュニケーション活動に取り組む生徒の育成
柴田 明美	新香山	道徳	生きるということを考える授業
岡田 幸夫	六ツ美	特殊教育	主体的にかかわることのできる生徒の育成

●共同研究の部

最優秀賞

現職教育部 金指由香里	城南	教育全般	心豊かに生き生きと活動する城南っ子の育成
保健体育部 山本 照司	竜海	体育	自らチャレンジし生涯体育を目指す授業

優秀賞

1学年部会 志賀 敏子	根石	図書館	心豊かな子を育てる読書指導
研究部 香村 敏之	梅園	教育全般	自ら考え進んで学びとる力を育てる授業のあり方
6学年部会 高橋由美子	井田	教育全般	自ら課題を見つけ、意欲的に取り組む総合学習
現職教育部 酒井 久男	竜海	教育全般	「わかる学習指導」自ら追究する生徒の育成
現職教育部 高須 光平	六ツ美北	教育全般	生徒一人一人の自己実現をめざす教育の創造

〈論文応募者数〉

賞	最優秀	優秀	佳作	合計
個人	1	31	60	92
共同	1	3	5	9
個人	1	14	30	45
共同	1	2	5	8
合計	4	50	100	154

佳作

氏名	学校名	教科領域	氏名	学校名	教科領域
本多さおり	梅園	国語	齊藤 光男	常磐	特別活動
野々山宣子	美合	国語	鷹見 京子	矢作東	特別活動
河上 眞一	緑丘	国語	渡辺みちよ	矢作北	特別活動
加藤 宙子	羽根	国語	杉田 浩史	六北部	特別活動
伊藤 晴江	羽根	国語	鈴木 正統	城南	特別活動
鈴木理栄子	常磐南	国語	足立 光世	根石	特殊教育
中村まゆみ	常磐南	国語	兼松ゆかり	広幡	特殊教育
吉野みゆき	六中部	国語	山下桂世子	広幡	特殊教育
浅井 英之	梅園	社会	磯谷佳保里	福岡	学校保健
都筑 郁代	梅園	社会	小林 友美	本宿	学校保健
杉田 吉男	三島	社会	内山彩由実	常磐南	学校保健
倉地 耕治	連尺	社会	伊奈 良晃	井田	教育全般
佐藤 浩司	大樹寺	社会	小川真奈美	本宿	教育全般
滋野井貴子	矢作北	社会	板倉 登	常磐	教育全般
中西 勉	六北部	社会	山下 妙子	六北部	教育全般
青木 洋子	梅園	算数	伊藤 明美	甲山	国語
中根 帆波	梅園	算数	近藤 嗣郎	竜海	国語
鈴木 勝久	梅園	算数	丹羽 郁人	福岡	国語
安藤 太平	六北部	算数	岩附 広行	矢作	社会
多田 上地	算数	数	佐橋 康仁	美川	数学
山田真寿美	梅園	理科	坂本 伸夫	葵	数学
小久保 晃	根石	理科	深木 雄士	六ツ美	数学
常盤 圭	連尺	理科	小島 英樹	竜海	理科
香川 哲範	広幡	理科	児玉 洋行	竜海	理科
天野 道晴	本宿	理科	柴田 昌一	葵	理科
林 尚子	矢作北	理科	片岡 正樹	城北	理科
水越 澄江	城南	理科	寺坂 信久	北	理科
鷲見 辰美	小豆坂	理科	鈴木隆太郎	矢作	音楽
脇田 琢己	小豆坂	理科	太田 正文	南	美術
谷川 光代	梅園	生活科	永田 勲	福岡	体育
和田真実子	細川	生活科	小川 有理	体育	竜南
岩瀬美賀子	大樹寺	生活科	太田 一弘	体育	六ツ美北
鈴木 順子	矢作北	生活科	三浦みどり	葵	技術家庭
戸澤 繁美	北野	生活科	吉雄 郁高	矢作北	技術家庭
富田 綾子	本宿	音楽	深津 幸弘	北	技術家庭
加納 有希	根石	図工	浅野 博志	六ツ美北	技術家庭
成田 隆行	竜美丘	図工	石川 敏幸	福岡	英語
浅井 真人	連尺	体育	大野 幸代	矢作北	英語
佐藤 孝子	藤川	体育	林 幸康	矢作北	特別活動
中立 吉	本宿	体育	澤田 憲正	新香山	特別活動
中村 吉史	矢作西	体育	伊藤 研治	美川	視聴覚
金原 繁	六北部	体育	森 竜師	城北	視聴覚
阿部 洋子	大樹寺	技術家庭	北村 栄子	竜海	学校保健
小原 佳子	六名	道徳	大塚 健一	南	生徒指導
嘉森 澄江	六北部	道徳	大山 敬章	南	生徒指導

佳作

現職教育部 蛭川 秀子	常磐	国語	数学部 小澤 弘	甲山	数学
算数部 田村 康則	竜美丘	算数	数学部 加藤 俊明	竜南	数学
視聴覚部 寛 美鈴	藤川	視聴覚	体育部 鈴木 博実	美川	体育
現職教育部 山本 典弘	北野	教育全般	現職教育部 土田 修義	北	図書館
現職教育部 田中 忠康	恵田	その他	研究企画部 河合 安男	甲山	教育全般

一年のあゆみ

◀ 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会で力走する福岡中学校の石川さん (TVより)



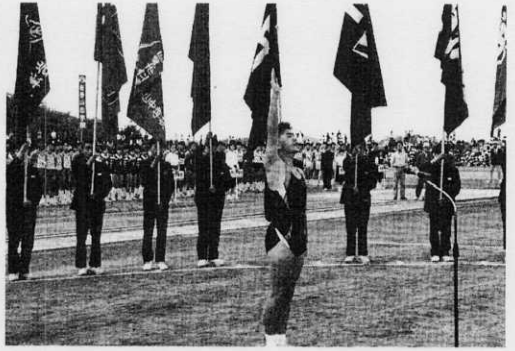
◀ 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で力走する竜海中学校の富田君



10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	8	8	7	7	7	7	6	5	4	4	4			
26	20	13	10	10	10	5	1	23	22	19	15	11	16	8	1	1	30	27	22	22	9	14	12	30	18	1

- ・新規採用教員37名辞令伝達式
- ・現職教育委員会総会(北中)
- ・市制80周年記念「メディアアドベンチャー」開催(5・5)
- ・第40回岡崎市中学校総合体育大会
- ・中学生呼と浩特(フフホト)市訪問(21)
- ・第10回中学生の主張コンクール(せきれいホール)
- ・第49回岡崎市中学校市長杯総合体育大会(24)
- ・岡崎市小学校球技大会(25)
- ・第23回岡崎市民大学講座開催(市民会館)
- 尾車 浩一氏(7・27) 森 茂美氏(8・3)
- 今井 通子氏(8・24) 邱 永漢氏(9・7)
- 加来 耕三氏(9・21) 村松 英子氏(10・19)
- ・第34回岡崎市小学校水泳大会
- ・第50回愛知県中学校総合体育大会(4)
- ・夏期実技講習会開始(2)
- ・第18回東海中学校総合体育大会(11)
- バレエボール男子 優勝 竜南中学校
- 体操女子個人総合 優勝 竜南中学校 中瀬 直子
- 陸上男子千五百M 優勝 竜海中学校 重見 高好
- 水泳男子二年百M平泳ぎ優勝 竜海中学校 大村 之博
- 平成8年度全国中学校選抜大会(25)
- 体操女子個人跳馬 優勝 竜南中学校 中瀬 直子
- 陸上競技男子四×二百MR 二位 六ツ美北中学校
- ・日野市朗郵政大臣 新香山中学校訪問
- ・第63回NHK全国学校音楽コンクール東海北陸大会
- 小学校の部 金賞 矢作南小学校
- ・第46次教育研究岡崎集会(福岡中・福岡小)
- ・第49回中部合唱コンクール
- 中学校同声の部 金賞 六ツ美北中学校
- 吹奏楽祭(市民会館)
- 中学生ニューポートビーチ市訪問(10)
- ・第35回岡崎市小学校陸上競技大会(県岡崎総合運動場)
- ・第43回理科作品展(中央総合公園武道場)
- ・第23回技術・家庭科作品展(中央総合公園武道場)
- ・第43回岡崎市民体育祭(中央総合公園)
- ・第28回岡崎中学校新人総合体育大会
- ・第63回NHK全国学校音楽コンクール全国大会
- 小学校の部 矢作南小学校
- ・第33回造形おかざき子展(27)(おかざき世界子ども美術博物館)

◀ 岡崎市中中学校の体育旗をバックに宣誓をする選手代表



◀ 全国中学校選抜大会の陸上競技男子800MRで二位の六ツ美北中学校



▶ フフホト市を訪問した中学生一行



▶ ニューポートビーチ市のシエリフ(海上警察)と記念撮影



全国自作視聴覚教材コンクールで文部大臣賞を受賞



市制八十周年記念事業「メディアアドベンチャー」のバーチャルモジュールに全小中学校が参観

3	2	2	2	1	1	1	1	1	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11
1	21	14	14	24	19	19	16	15	12	12	24	24	23	20	16	13	9	3	1

- ・第38回岡崎市中生英語スピーチコンテスト(せきれいホール)
- ・TV会議システム利用実践授業 竜美丘小学校
- ・全日本健康推進学校 中規模校の部 全国優秀校 すこやか大賞 山中小学校
- ・第15回全日本小学校バンドフェスティバル 竜美丘小学校吹奏楽部
- ・学校保健大会(六ツ美北中)
- ・第24回岡崎市教育文化賞授賞式(せきれいホール) 高木 宏子氏、山本 純子氏、県交通安全協会大門分会 朗読ボランティア虹の橋会、矢作北小学校雅楽部
- ・第24回生徒市議会(岡崎市議会議場)
- ・第24回岡崎のハーモニ(岡崎市民会館)
- ・第45回愛知県中学校長距離競走大会
- ・第14回全国小・中学生作品コンクール 算数・数学科部門
- ・文部大臣奨励賞 六ツ美北中学校 杉浦 千秋・永井 里美
- ・全国自作視聴覚教材コンクール (中学校部門)
- ・文部大臣賞 AVL・市現職教育理科部
- ・一九九六年視聴覚教育賞 (学校教育部門)
- ・教育奨励賞 美川中学校
- ・叙勲・表彰者合同祝賀会(竜美丘会館)
- ・平成8年度学校体育賞授賞式(中央総合公園武道場)
- ・第23回冬季研修会(26)(少年自然の家)
- ・第15回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 福岡中学校 石川 映美
- ・第40回小中学校書き初め展(19)(岡崎市美術館)
- ・堀之内久男郵政大臣 常磐東小学校訪問
- ・第48回岡崎市民駅伝競走大会
- ・第2回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 竜海中学校 富田 好志・内田 直将
- ・第23回岡崎小中学生作文コンクール表彰式(福祉会館)
- ・第23回読書感想文・感想画コンクール表彰式(福祉会館)
- ・愛知県自作視聴覚コンクール 最優秀賞 AVL・市現職教育理科部
- ・平成8年度視聴覚教育賞授賞式(情報ネットワークセンター)
- ・第7回学校文化賞授賞式(福祉会館)

生徒市議会で、市政ビジョンを熱く語る中学生



全日本小学校バンドフェスティバルに出場した竜美丘小学校吹奏楽部



日本伝統の雅楽を演奏する教育文化賞受賞の矢作北小学校の雅楽部



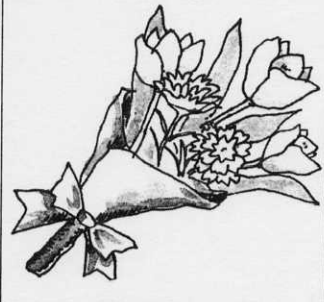
第四十回の大きな節目を迎えた小中学校書き初め展



平成8年度の研究発表校

月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料
6月14日	福岡中	教育全般	目を輝かせ、個性豊かに学習できる生徒の育成	来る21世紀の社会はいっそう文明が発達し、急速に進化・発展する社会になると思われる。このような社会に適応できる生徒を育てるには、生徒の個性を尊重した学習が大切であると考え、本研究に取り組んだ。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 椋山女学院大学教授 長岡 利貞 先生
6月21日	六ツ美北中	教科指導	生徒一人一人の自己実現をめざす教育の創造 -「個」から「かかわり合い」へ-	生徒の内面に眠っている、また芽生えかけている多くの可能性や潜在する能力を引き出し顕在化する生徒の自己実現を目指した。まず、個からかかわり合いの過程で、知的葛藤を誘発させ、余韻が残る授業の実践を試みた。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 愛知淑徳大学大学院教授 霜田 一敏 先生
6月25日	美合小	国語科	書きつづる喜びを高め合う子の育成 -ひとりが生きる、ひとりを生かす作文の授業-	平成元年からの継続研究。子供が本来備えている表現意欲を、歩くように呼吸するように作文に書くことを通し、喜んで書こうとする子・感動を自分の言葉で表現できる子・作品を互いに認め合える子の育成を目指した。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 作文の年間指導計画 学校文集「みあいの子」 北海道教育大学函館校教授 野口 芳宏 先生
10月15日	梅園小	教科指導	自ら考え、進んで学びとる力を育てる授業のあり方	子供の課題意識を大切に、体験的、問題解決的な学習活動や多様な表現活動の場を単元構成の中に位置づけた授業を工夫することで、自らのよさを発揮し、主体的に学習に取り組む子供の育成を図った。	研究物 助言者 研究紀要 学習指導案綴 前新城小学校長 小林 和光 先生 形原小学校長 内山 剛久 先生 教育センター 松崎 嘉信 先生 広幡小学校長 有我 亮介 先生
10月22日	細川小	教育全般	この子が生き、育つ授業の創造 -個のとらえと支援-	子供一人一人の「この子らしさ」ととらえ、「この子らしさ」が生きる授業を組み立て、とらえに応じた適切な支援を積み重ねることで一人一人の子供が意欲をもって主体的に学ぶ授業を実践研究した。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 愛知教育大学教授 川上 昭吾 先生
10月30日	連尺小	学習指導	【授業】 その単元構想と本時の展開の工夫	「学ぶ授業、わかる授業、楽しい授業」を目指し、研究してきた。単元構想の段階では子供の側に立った教材の選定・構成、また、思考や活動を発展させるような展開の工夫をして、いきいきとした授業展開を図った。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 実践記録 中部女子短期大学 副学長 和田 吉弘 先生
11月8日	新香山中	教育全般	自己教育力を高める教育活動 -豊かでたくましい心と生きてはたらく力の育成を目指して-	多くの人との出会いや体験的な活動を積極的に取り入れ、生徒の人間性を高めるとともに、生徒が主体的に追究し、思考力・判断力・表現力を身につけ、学んだことを自分の生活に生かしていく力を育成する。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 名古屋大学助教授 大谷 尚 先生
11月12日	井田小	教育全般	豊かな心をもって、たくましく生き抜く子どもの育成 -総合学習を通して-	平成4年からの継続研究。低学年生活科での子どもたちの意欲・関心の中・高学年でさらに発展させたいと、各教科から必要な部分を融合させ「総合学習」として工夫・展開。21世紀に生きる子どもの育成を目指した。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 名古屋大学名誉教授 高桑 康雄 先生 前岡崎女子短期大学非常勤講師 内田 松夫 先生
11月19日	甲山中	教育全般	自己教育力を高める甲山教育の充実 -生徒自らが考え、深め・充実させる教育活動を通して-	「自己教育力を高める教科指導」「自己教育力を育む教育活動」の2つの視点から研究を進めてきた。特に本年度は、生徒一人一人の考えの掌握と個人目標を見据えた授業設計のための「座席表」の活用を焦点をあてた。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 豊田市立山之手小学校校長 前田 勝洋 先生を始め21名の各先生
12月3日	緑丘小	国語科	豊かな書き手を育てる作文指導	開校以来の感動の教育を継承し、作文指導と緑化教育の一体化を図り、「何のために、何を、どう書き、どう生かすか」を子供たちが捉えられるように、文章表現能力一覧表と多彩な作文単元を作り実践を行った。	研究物 講 師 研究紀要 学習指導案綴 前産能大学教授 森久保 安美 先生 前岡崎女子短期大学非常勤講師 内田 松夫 先生
1月31日	六ツ美北部小	教育全般	地域と手をつなぐ学校 -総合学習の構想と展開-	研究の基盤を「地域と手をつなぐ学校」に置き、子どもたちが主人公である学校の創造を目指した。その中軸に総合学習「六北ふれあい活動」を位置付け、実感を大切に、地域を取り込んだ学習を実践してきた。	研究物 助言者 研究紀要 学習指導案綴 「子どもが輝く総合学習」 名古屋大学教授 安彦 忠彦 先生 幡豆中学校長 澤 博史 先生 岡崎小学校教頭 河村 喜美 先生
2月21日	河合中	教育全般	自ら考え、判断し、実践する生徒の育成 -豊かな心育てる青少年赤十字活動-	豊かな自然と他者とのかかわりの中での体験活動を重視し、青少年赤十字活動や自然保護活動を推進した。これらを通して、よりよい社会生活の構築に主体的、実践的に取り組もうとする豊かな生徒の育成を目指した。	研究物 講 師 研究紀要 日本赤十字社愛知県支部 生田 邦彦先生 桑原 富茂先生 岡崎女子短期大学非常勤講師 鈴木 松三 先生

お知らせ



◆全国中学校駅伝大会

六 位 竜海 中学校

◆第十五回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

愛知県代表選手

福岡中三年 石川 映美

◆第二回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

愛知県代表選手

竜海中三年 富田 好志

竜海中三年 内田 直将

◆交通安全第四十八回岡崎市駅伝競走大会

優勝 竜海中学校A

二位 竜南中学校A

三位 南中学校A

四位 矢作北中学校A

五位 六ツ美北中学校A

六位 福岡中学校A

【区間賞】

一区 竜海 野澤 稔

二区 城南 新美 亮

二区 城北 渡辺 禎

三区 竜海 加藤 健成

◆NHK中学生英語スキットコンテスト

基礎英語3部門

文部大臣賞 竜南中学校二年

◆NHK中学生英語スキットコンテスト

・基礎英語3部門

文部大臣賞 竜南中学校二年

川北 聖人

後藤真理子

望月 愛

◆第二十四回愛知県自作教材コンクール

特選 矢作幼 渡辺 典子

緑丘小 野澤 裕子

竜美丘小 水野 順子

山中小 浅井 君枝

竜海中 名倉 嘉章

◆愛知県アンサンブルコンテスト

金賞(中学校)

・クラリネット八重奏 竜海

・金管八重奏 竜海

(東海大会出場)

・サクソフォーン四重奏 竜海

◆第二十九回音楽鑑賞教育振興論文・作文募集

論文の部

努力賞 梅園小 鈴木 千恵

◆第四回全国小中学生お料理コンテスト

優秀賞

葵 中 三年 田 美佳

◆第四十二回青少年読書感想文愛知県コンクール

最優秀賞

竜美丘小 四年 荒井 俊介

城南小 一年 柴田 大輔

竜海中 三年 八木 夕香

六ツ美中 三年 近藤 佳子

◆県読書感想画コンクール

優秀賞

恵田小 三年 市川 久乃

上地小 六年 栗田このみ

新香山中 三年 後藤 律子

◆第四十二回青少年読書感想文全国コンクール

毎日新聞社賞

竜美丘小 四年 荒井 俊介

◆「家庭の日」県民運動啓発ポスター

佳作

三島小 六年 高瀬 絵梨

◆岡崎市ごみ収集車用デザイン画募集

最優秀賞

大門小 三年 天野 裕香

優秀賞

◆平成八年度岡崎市作文コンクール

・作文の部

最優秀賞

矢作北小 二年 安藤 夏海

岩津小 五年 春木絵理子

連尺小 二年 野元 虹希

河合中 二年 由良 佳子

矢作南小 六年 小森 郁子

竜美丘小 六年 富田佳奈子

六ツ美中 二年 野村美佐子

甲山中 三年 神谷季代子

交養北中 一年 梅村 将伍

美合小 二年 本多 裕之

三島小 三年 清水 彩

矢作北小 四年 仲間めぐみ

男川小 五年 田辺あかり

井田小 六年 中山 依子

甲山中 一年 中嶋 佳容

北中 二年 鈴木 啓太

葵中 三年 内田 友乃

福岡小 一年 八木 俊行

城南小 四年 池田 真弓

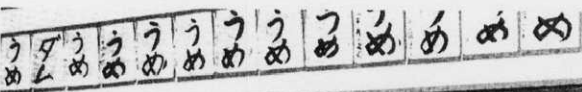
福岡小 五年 滝本 智也

葵中 一年 青木 源太

南中 三年 下島 優子

先生活動

ALTの先生をお招きして、交流活動を行いました。楽しく通心を通わせました。





視聴覚ライブラリー 蔵

視聴覚教育 『月報』 No.1

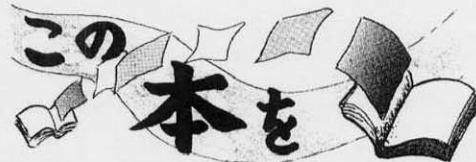
昭和二十九年五月、視聴覚ライブラリーの前身、岡崎市小中学校視聴覚教育協会が発足し、その広報紙として「視聴覚教育」もスタートした。

その後、「ライブラリー報」「AV報」と名前を変えたが、四十九年四月より「月報」視聴覚教育」として発行されるようになり、現在二百三十号を数える。

三十年十二月には、「視聴覚教育『月報』」と名を変え、第一号が発刊された。十六ミリ映画を取り入れた学習の実践記録、新規購入映画の紹介、映写機故障への対応等が取り上げられた。業者に委託したB4、二ツ折、四ページにわたるガリ版印刷の文字を見ると、視聴覚教育に打ち込む意気込みがひしひしと伝わって

「月報」は、その時々の最新の機種とその取り扱い、それらを活用した授業実践、また研究大会の報告などを伝え、目まぐるしく移り変わる機器活用の水先案内人の役割を果たしてきたといえる。

- ・表紙写真 小豆坂小
- ・表紙詩 小豆坂小
- ・カット 六ツ美中
- 佐野多映
- 前川あゆみ
- 太田幹雄



- *最後の花時計 遠藤 周作 ￥1100
文藝春秋
- *もっとおもしろくても理科 清水 義範 ￥1600
講談社
- *木を読む 林 以一 ￥1500
小学館
- *「オキテ破り」で生きてきた 竹村 健一 ￥1300
PHP研究所

*教育力の原点 谷 昌恒 ￥2000

岩波書店
北海道家庭学校は、昔は感化院、今は救護院と呼ばれる施設である。著者は、創立者留岡幸助の後を受けて、昭和44年から学校長を務めている。ここには、「不幸に負けた子どもたちがいる」と著者は言い、不幸の種を播いたのは大人たちだと言う。

著者の子どもたちに対するいとおしい気持ちが心に響いてくる。絶版になった『教育の心を問い続けて』、『いま教育に欠けているもの』(岩波書店)の二編が収められているのがよい。

大銀杏を乱しながら、相手を土俵にはわせる決まり手の数々。「相撲道」という言葉があるが、厳しい鍛練から生まれた技には無駄がなく、流れるように鮮やかだ。石工道具づくり四十年の大橋さんの技にも、相通じるものを感じた。まさにその道の達人である。



空き教室を活用した「ヘルスライブラリー」では、健康に関する本やビデオを借りられるようになってきているそうだ。独自の工夫で、健康教育を推進する山中小。子供たちが笑顔であいさつしてくれる。大人になっても、健康に気を配れる人でいるに違いない。

初志貫徹で臨んだ八年度も、今月で終わる。花の便りを聞けば、新学期の準備のため、四月の初志を忘れる。毎年の繰り返しにならないように自らを戒める。「初志」と言えば、今月で勇退される方々には、取り分け大きな意味を持つ。謙虚に初志を伺いたい。

スライドやハミリはVTRに。レコードも、CD・LDに変わってはや十年。「月報」の第一号には、全国研究大会で幻燈機を使用した授業報告がなされている。機器の進歩と共に歩む視聴覚部の部報は、ことばの変遷でもある。